

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第34期ビジネスレポート
2009年7月1日～2009年12月31日(第2四半期)



ユビテックはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



環境保全のため、大豆油インキとFSC認証紙を使用して印刷しています。



証券コード：6662

株式会社ユビテック

■ 半年の歩み

2009

7/1

BXシリーズ販売開始

7/6

IPA「組み込みシステムのセキュリティへの取り組みガイド」を一般公開(ユビテックが策定に協力)

7/31

Ubiteq Energy Watcher販売開始

8/4

社団法人日本医師会治験促進センターe-Learning WORLD 2009実行委員会、フジサンケイビジネスアイ主催第6回 日本e-Learning大賞で審査委員特別賞を受賞(ユビテックのWeb2.0技術を利用したSNSとe-Learningの融合システムが貢献)

10/5

GEATEC JAPAN 2009にローム株式会社製「紙幣鑑別向けCIS」デモ機展示(ユビテック製イメージセンサ共通プラットフォーム使用)

10/5

グリーン東大工学部プロジェクトがグリーンIT推進協議会主催「グリーンITアワード2009・審査員特別賞」を受賞

※Topics01参照

10/28

グリーン東大工学部プロジェクトが日経BP社主催「グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞」を受賞

※Topics01参照

10/29

グリーン東大工学部プロジェクトにて施設利用の無駄遣いを見える化(BX-Officeで講義室と会議室の利用実態が明らか)

11/27

「製品評価ソリューション」の提供を開始

※Topics02参照

12/3

「宙博2009」に環境ソリューション「BE GREEN」を出展

※Topics03参照

12/4

ネットワンパートナーズ株式会社とBX-Officeの販売代理店契約を締結し、「CFMS by BX-Office」販売開始

※Topics04参照

12/9

エコデザイン2009国際シンポジウムにて「ITによる省エネ」成果を発表

12/10

エコプロダクツ2009に「BE GREEN」を出展

7月

8月

10月

11月

12月

Topics
01

グリーン東大工学部プロジェクトが2つの賞を受賞
ユビテックのBX-OfficeがグリーンIT化実証実験で貢献しました。

2008年6月の発足時より当社が参画している「グリーン東大工学部プロジェクト」がグリーンIT推進協議会主催グリーンITアワード2009・審査員特別賞および日経BP社主催グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞を受賞しました。

当社はBX-Officeを活用した実証実験を進めており、今まで把握できていなかった事象や効果をグラフや数値などで視覚的に把握できるように「見える化」し、計測されたデータを基に、どこを削減すれば効果的・効率的な省エネができるかに焦点をあて、省エネに向けた課題の洗い出しと解決に向けた検討を進めてきました。今後もグリーン東大工学部プロジェクト参画企業として最先端の省エネ・環境対策技術の統合と評価について貢献していきます。

※グリーン東大工学部プロジェクト実証実験の成果については4ページに詳しく掲載しています。



▲ グリーンITアワード



▲ グリーンITユーザーアワード

Topics
02

製品評価ソリューションの提供を開始しました。

ユビテックの携帯電話評価業務を拡大させ、携帯電話に限らず多種多様な製品を対象とする評価ソリューションの提供を開始しました。

ユビテックの製品評価ソリューションは、「ユーザ観点評価」と「ユーザエクスペリエンス評価」で構成されています。従来型テストでは、設計仕様書を網羅的に確認し、莫大なテスト工数が必要となるのに対し、ユビテックのユーザ観点評価は、今までの携帯電話評価業務で培われたノウハウを活用し、実際の日常シーンにおいてユーザが頻繁に操作する・目にする部分を想定し、徹底した検証を行うことで、効率的に致命的な問題点を発見します。ユーザエクスペリエンス評価は、様々な角度から評価・分析を行い、顧客満足度の高い魅力的な製品開発に必要となる、有益な情報や改善提案を提供します。

今後もユビテックならではのノウハウを活用し製品開発を支援するとともに、製品に新たな付加価値をもたらす、技術を感じさせない、人に優しい製品を増やしていけるよう支援を続けていきます。

Topics
03

「宙博(ソラハク) 2009」に環境ソリューション「BE GREEN」を出展しました。

2009年12月3日～6日に開催された国内初の宇宙・環境エネルギーイベント「宙博2009」において、ユビテックはITを活用した最先端の環境・省エネソリューションを紹介すべく、特別協賛として「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を先進ユビキタス技術で実現する環境ソリューション「BE GREEN」を出展いたしました。

「ITで省エネって、どういうこと？」をテーマにしたブース内では実際にデモンストレーションを行いながら、インターネットと設備制御の統合ゲートウェイ「CFMS by BX-Office」によるITを活用したオフィスの遠隔制御を体験して頂きました。又、当社社長 荻野の講演も行いました。ユビテックでは、オール・ネットワークによる連携管理とワークスタイルの変革を促す「未来型の省エネ」を目指し、当社の技術を活用しながらクリーンな地球環境維持に貢献していきます。

※「BE GREEN」については4ページに詳しく掲載しています。



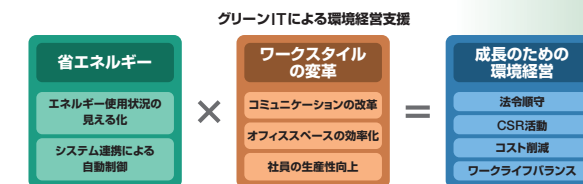
▲ 当社社長荻野の講演

Topics
04

ネットワンパートナーズ株式会社と販売代理店契約を締結し、「CFMS by BX-Office」の販売を開始しました。

2009年12月、ユビテックが開発したインターネットと設備制御の統合ゲートウェイBX-Officeに関して、ネットワンパートナーズ株式会社と販売代理店契約を締結し、ネットワンパートナーズ株式会社からBX-Officeを搭載した「CFMS by BX-Office」の販売を開始しました。「CFMS by BX-Office」は、省エネルギー環境の実現と、オフィスビルで働く人のワークスタイル変革を同時にもたらす、環境にやさしく、生産性の高い経営環境を構築できる画期的なソリューションです。ネットワンパートナーズ株式会社とシスコシステムズ合同会社との強力なチーム編成に基づく販売開始は、快適なワークスタイルと省エネルギーの両立という市場を一層拡大するものと期待しています。

※「CFMS by BX-Office」の製品概要については5、6ページに詳しく掲載しています。



環境エネルギー革命の時代、世界を視野に入れ先進のコビキタス技術で実現する新環境ソリューションの開発を進めていきます。

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

金融市場の混乱から世界的な不況へ、100年に一度と言われる市場経済の動乱であった2009年を経て、新たなる産業革命の兆しが見えて参りました。2010年は、新興国と環境エネルギー革命の時代と言えます。特に世界が注目している環境エネルギービジネスについては、ここ数年の当社の取り組みが遺憾なく発揮できるのではないかと考えております。

次世代コビキタス社会を支えるべく「やらされる省エネ」から「やりたくなる省エネ」を実現する当社の製品・サービスである「ECOTEQ」を進化させ、昨年末に新しく「BE GREEN」としての提供を開始いたしました。

BE GREENソリューションとして、今後、特に下記2点に注力していきたいと考えております。

■「CFMS by BX-Office」販売開始

コビキタス研究所の発足年である2002年より取り組んでおります、BX (Building Exchange) をさらに進化させ、ビル・マンションへ応用展開したBX-Officeが、シスコシステムズ合同会社殿とのパートナーシップにて、「CFMS (Cisco Facility Management Solution) by BX-Office」として商品化され、ネットワパートナーズ株式会社殿を販売代理店として全国で販売を開始しました。

本商品は、グリーン東大工学部プロジェクトにて実証実験を実施したプロトタイプがその前身で、当社は、グリーン東大工学部プロジェクトの幹事企業として、産官学が連携したIT技術による環境事業創生の一翼も担っております。昨年、同プロジェクトが受賞した2つの賞においても大きな貢献を果たしたと自負しております。

今後、世界展開を視野に入れた、更なる開発を進めていく所存です。是非、ご期待頂ければと思います。

■カーソリューション事業の拡大

オリックスグループ入り協業第一弾として、2008年からオリックス自動車株式会社殿のカーシェアリング用車載機の開発をさせて頂きました。昨年は、テレマティクス用サーバ&車載機の開発を終了させ、本年は新たなカーソリューションの開発を実施する予定です。自動車のエコ化は世界の趨勢であります。電気自動車 (EV) 普及の気運など、自動車市場の大きな変革の到来でもあり、新旧交代を予感させるこのビジネスチャンスに当社のセンシング技術、通信技術を武器に新たな市場創造に挑戦していく所存です。

今後も新たな市場に挑戦し、「夢」に踊らず、真面目に「夢」を目指して、社員一丸となって着実な成長を図っていく所存ですので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

企業理念

「次世代コビキタス技術の創造に挑戦」
「技術と顧客志向」



代表取締役社長 荻野 司

BE GREEN

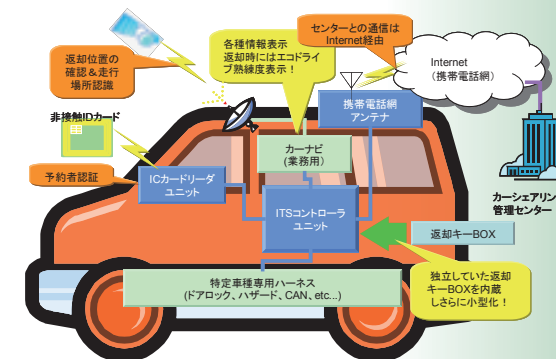
～コビテックはECOTEQを進化させ、新しく「BE GREEN」ソリューションとして提供を開始します～

BE GREEN

「BE GREEN」は、「人を感じて動く、人に合わせて動く」コビキタス技術を駆使することで「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を先進のコビキタス技術で実現する環境ソリューションです。

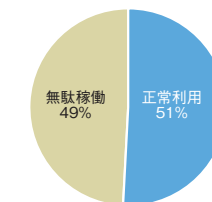
BE GREEN製品

- BX-Office
- BX-Info
- BX-Energy
- BX-Room Viewer
- CFMS by BX-Office
- カーシェアリング車載システム

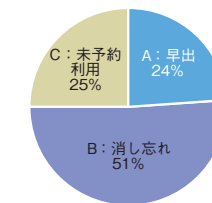


グリーン東大工学部プロジェクト実証実験の成果 BX-Officeで講義室と会議室の利用実態が明らかに

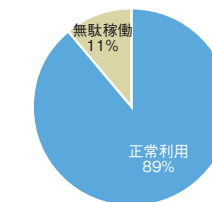
講義室の総利用時間の内訳



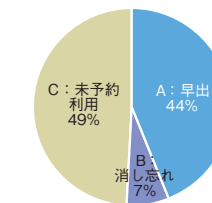
講義室の無駄稼働の原因



会議室の総利用時間の内訳



会議室の無駄稼働の原因



都内最大のCO₂排出事業所である「東京大学本郷キャンパス工学部新2号館」にある講義室と会議室にて行った1ヶ月のモニタリングの結果、不必要な照明・空調の使用や会議室管理ルールを無視した施設利用等を改善の余地がある「無駄」と捉え時間数を集計し、見える化しました。

総利用時間あたりの無駄利用率を集計した結果、総利用時間に対して講義室は49%、会議室は11%の無駄稼働が把握でき、これにより無駄稼働分の約10-50%に対し、設備制御や運用ルールの見直しを図ることで、省エネ化が見込めるという結果を導き出しました。

また、無駄稼働を早出・未予約利用・消し忘れの3つの無駄パターンに分類し、無駄パターン毎の計測数値と、各室の利用方法、時間帯による行動パターンと比較・分析を行い無駄利用の原因と傾向が明確化しました。講義室の無駄の原因は消し忘れが多く見受けられ全体の半分以上を占めており、一方会議室の無駄の原因は消し忘れが7%で、残りは早出・未予約利用がおおよそ半分ずつを占めていました。今後は、今回の成果で「見える化」された無駄を省く効率的な運用の実現に向け実証実験を行ってまいります。

●「CFMS by BX-Office」 グリーンITで省エネとオフィスワークスタイルの変革を促す ファシリティマネジメントソリューション

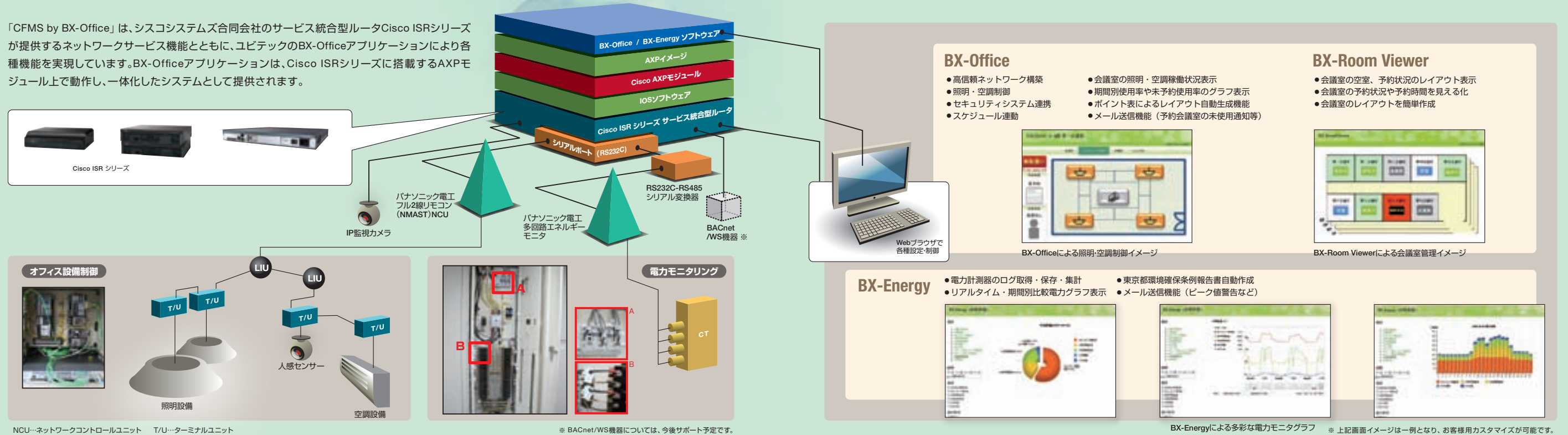
当社は、2009年12月にネットワンパートナーズ株式会社とインターネットと設備制御の統合ゲートウェイBX-Officeに関する販売代理店契約を締結し、ネットワンパートナーズ株式会社からBX-Officeを搭載した「CFMS by BX-Office」を発売しました。

CFMSとはCisco Facility Management Solutionの略で、シスコシステムズ合同会社のサービス統合型ルータCisco ISRシリーズに実装される機能のひとつで、シスコシステムズ合同会社とユビテックの協業によって実現されました。「CFMS by BX-Office」は、これまでIPネットワーク上で制御していた業務系ネットワークと、オフィスの照明や

空調などを管理していた設備系ネットワークの統合管理を行います。人感センサーやオフィススケジューラーとの連携も可能になるため、例えば、人の入・退出に合わせ自動的に空調や照明のスイッチがオン・オフされるなど、会議室の利用者に意識をさせることなく、企業内で省エネへの取り組みを行うことができます。さらに、東京都の環境確保条例に則った報告書（雛形）の自動作成や、使用状況のグラフ化など、レポート機能も充実しており、管理者の負荷を軽減することが可能です。「CFMS by BX-Office」を導入することで、オフィス設備の効率的な利用を促し、無駄な電力使用の削減に貢献します。

「CFMS by BX-Office」システムイメージ

「CFMS by BX-Office」は、シスコシステムズ合同会社のサービス統合型ルータCisco ISRシリーズが提供するネットワークサービス機能とともに、ユビテックのBX-Officeアプリケーションにより各種機能を実現しています。BX-Officeアプリケーションは、Cisco ISRシリーズに搭載するAXPモジュール上で動作し、一体化したシステムとして提供されます。



NCU…ネットワークコントロールユニット
T/U…ターミナルユニット
LIU…ローカルインターフェースユニット
CT…カレントトランスフォーマー

※ BACnet/WS機器については、今後サポート予定です。

BX-Energyによる多彩な電力モニタグラフ ※ 上記画面イメージは一例となり、お客様用カスタマイズが可能です。

当第2四半期の業績について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部では景気持ち直しの兆しも見られましたが、総じて景気の停滞感は強く回復感に乏しい状況が続いております。当社グループの関連市場においても企業収益の完全な回復には至らず、設備投資抑制は続き、需要回復の遅れや価格低下圧力が強まる等、引き続き厳しい事業環境となりました。このような状況の中で、既存事業の落ち込みをカバーすべく、前連結会計年度に引き続きグループ全体によるローコストオペレーション体制を維持すると共に、事業効率化とコスト削減などの諸施策に取り組んでまいりました。また、事業構造の変革として、受託開発事業中心の構造から顧客先企業の状況に影響を受けにくい自社製品と自社サービス提供型事業へと移行すべく、BX-Officeを始めとした「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現するBE GREENソリューションを中心に自社製品・サービス開発及び販売を進めています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,815百万円（前年同四半期比31.9%減少）、営業利益は43百万円（前年同四半期比78.7%減少）、経常利益は46百万円（前年同四半期比77.7%減少）、四半期純利益は6百万円（前年同四半期比93.9%減少）となりました。

連結各セグメントの概況について

電子機器事業は、既存顧客向けの量産案件がエレクトロニクス業界不振による影響を受け、主力製品の販売が減少したため、前連結会計年度に引き続き厳しい事業環境となりました。このような事業環境の下、オリックス自動車(株)向けの車

載機事業については着実に売上を獲得し、今後も売上拡大を進めていきます。また、業務全体を見直しながら関係協力会社にもご協力頂き、仕入れコストや外部委託費用について削減を進めてまいりました。

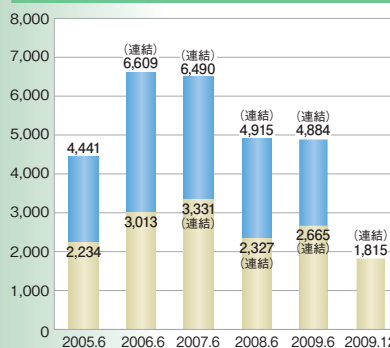
この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は948百万円（前年同四半期比32.1%減少）、営業利益は152百万円（前年同四半期比26.4%増加）となりました。

なお、Ubiteq HK Ltd.は業務効率化及びコスト削減のために業務を本社に移管しました。現在Ubiteq HK Ltd.は営業活動を停止しており重要性が乏しいと判断されるため、第1四半期連結会計期間末より連結除外しております。

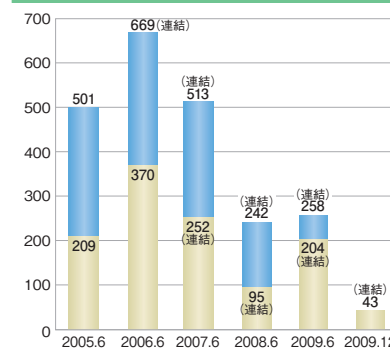
モバイル・ユビキタス事業は、資本提携先であるパナソニック電工(株)からの受注は順調に推移したものの、主力事業であった携帯電話評価業務の受注が減少し、子会社での組み込み型ソフトウェアの受託開発等の受注減からくる赤字の影響があり、当第2四半期連結累計期間の売上高は866百万円（前年同四半期比31.6%減少）、営業利益は65百万円（前年同四半期比75.8%減少）となりました。

省エネソリューションとして本年度より販売を開始したBX-Officeを始めとするBXシリーズについてはネットワークパートナーズ(株)と販売代理店契約を締結し、シスコシステムズ(株)のサービス統合型ルータCisco ISRシリーズにBX-Officeを搭載した「CFMS by BX-Office」の販売を開始し、売上獲得に向けて拡販を進めております。また、宙博2009への出展も行い、引き続き追加機能開発やマーケティングに注力し積極投資をしていきます。

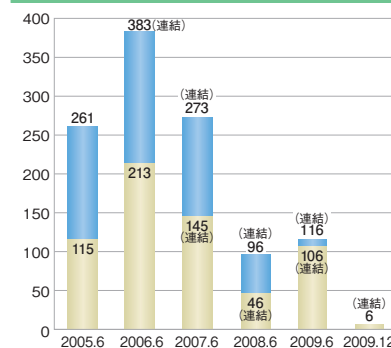
売上高 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



営業利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



四半期(当期)純利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



第2四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2009年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (2009年12月31日)
資産の部		
流動資産	3,411,103	3,309,428
現金及び預金	1,876,107	1,771,610
受取手形及び売掛金	1,121,483	1,129,736
たな卸資産	157,601	203,816
その他	255,910	204,265
固定資産	385,827	415,642
有形固定資産	80,053	75,179
無形固定資産	50,247	43,970
投資その他の資産	255,527	296,492
資産合計	3,796,930	3,725,070

第2四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (2009年7月1日から 2009年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2009年7月1日から 2009年12月31日まで)
売上高	2,665,708	1,815,406
売上原価	2,095,852	1,412,390
売上総利益	569,856	403,015
販売費及び一般管理費	364,906	359,448
営業利益	204,949	43,567
営業外収益	6,309	5,401
営業外費用	4,464	2,935
経常利益	206,794	46,033
特別利益	—	—
特別損失	3,500	1,332
税金等調整前四半期純利益	203,293	44,700
法人税、住民税及び事業税	73,811	26,892
法人税等調整額	22,638	12,013
少数株主利益又は損失(△)	213	△751
四半期純利益	106,629	6,545

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (2009年7月1日から 2009年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2009年7月1日から 2009年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	235,971	△7,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,005	△26,187
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34,484	△32,603
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,308	△1,037
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	204,183	△67,716
現金及び現金同等物の期首残高	1,507,187	1,876,107
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△36,781
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,711,370	1,771,610

■ 会社概要

商号

株式会社ユビテック
Ubiteq, INC.

設立

1977年(昭和52年)11月17日

所在地

〒141-0031
東京都品川区西五反田一丁目18番9号
五反田NTビル

資本金

854,798,342円

金融商品取引所

大阪証券取引所(ヘラクレス・スタンダード)

会計監査人

あずさ監査法人

証券コード

6662

従業員数

182名(連結)

■ 役員

代表取締役社長	荻野 司
取締役会長	藤原 洋 ※1
常務取締役	明石 直人
取締役	平田 満
取締役	白木 道人
取締役	徳田 英幸 ※1
取締役	江崎 浩 ※1
常勤監査役	松井 和明 ※2
監査役	小林 稔忠 ※2
監査役	与謝野 肇 ※2
監査役	高橋 通 ※2

※1 藤原 洋氏、徳田 英幸氏、江崎 浩氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

※2 松井 和明氏、小林 稔忠氏、与謝野 肇氏、高橋 通氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式情報

発行可能株式総数-----520,000株
発行済株式総数-----141,668株
株主数-----1,845名

■ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社インターネット総合研究所	85,272	60.19
パナソニック電工株式会社	14,400	10.16
荻野 司	2,730	1.92
サン・クロレラ販売株式会社	1,550	1.09
糸谷 輝夫	1,299	0.91
藤本 琢磨	1,065	0.75
株式会社サン・クロレラ	1,000	0.70
松村 大典	563	0.39
明石 直人	517	0.36
平田 満	489	0.34

※上記のほか当社所有の自己株式1,400株(0.99%)があります。

■ ホームページのご案内

<http://www.ubiteq.co.jp/>



当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解頂くための様々な情報を提供いたしております。



<http://www.ubiteq.co.jp/ir/index.html>

IR活動の取り組み

株主アンケートについて

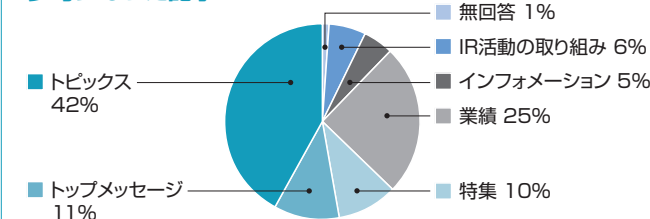
第33期ビジネスレポート(2009年9月17日発送)に同封させて頂きました株主アンケートにご協力頂き誠に有難うございます。温かい励ましのお言葉や厳しいお言葉を頂くことができました。皆様から頂きましたご意見を真摯に受け止め、これからも社員一丸となり頑張ってまいります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

頂いたご意見の中から、一部をご紹介します。

株主様の声

- ・今後業績が期待される会社と確信しております。只もっと会社を世間に知ってもらうためにも、テレビ新聞等でPRすることも良いのではないかと、株価も低迷しているので今後の株価上昇を期待します。(70代男性)
- ・堅実経営で良い。但し、営業力が弱い。独創性が欲しい。オリックスにダイレクトに繋がれ。(60代男性)
- ・売上・営業利益の上昇に期待しています。(30代男性)
- ・株価が超大幅に下落。一日も早い回復を願っています。(不明)
- ・売上拡大を期待します。基本技術の応用により異業種と提携を増大させてください。(50代男性)
- ・先進的なホームユビキタス開発と商業化！他よりも先進、前進化。(70代男性)
- ・増配して下さい。(40代女性)
- ・自社技術を一般に理解させる努力をして下さい。(30代男性)

参考になった記事



■ 株主メモ

事業年度	毎年7月1日～翌年6月30日	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ubiteq.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
期末配当金受領株主確定日	毎年6月30日		
中間配当金受領株主確定日	毎年12月31日		
定時株主総会	毎年9月下旬		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)		

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。